

第3回対人支援スキルアップ部会を開催しました

○2月20日（火）に第3回対人支援スキルアップ部会を開催しました。参加者は、部会メンバー7人、上越地域在宅医療推進センター1人、事務局4人の12人でした。

対人支援スキルアップ部会の立ち上げの経緯や当時の課題に対する第2期（令和2～4年）の取り組みについて再確認した上で、第3期に引き継がれた課題を踏まえ、今年度の振り返りから今後の活動について話し合いました。



○今回の議題

- (1) 令和5年度の取組について
- (2) 事例検討
- (3) 今後の取組について

○部会での検討事項等

(1) 令和5年度の取組について

- ・4つの専門部会員が9月20日に研修パッケージを使った研修を体験しました。部会内では①部会としてどのような人を取組の対象とするのか、②部会の取組をどのように評価するかを検討していく必要があるとの意見が出ました。
- ・部会員の職場（上越市地域包括支援センター、高田西城病院等）で研修パッケージを使用した研修会を開催しました。職場等で研修会を開催するには、受講者が研修パッケージに関心を持てるような趣旨説明等が必要であることが分かり、職

場等で研修会が効果的に開催できるような工夫について話し合いました。

(2) 事例検討

【意思疎通が難しい認知症のかたの事例】

担当者が、「認知症の進行を家族にどう理解してもらおうか」、「家族から責められてツライ」という思いをした事例。

◇感想・気づき◇

- ・担当者を“責める”ということは、それだけ家族の本人に対する思いが強いということ。本人を大事に思う気持ちを理解し傾聴したい。
- ・コロナ禍の事例ではあるが、本人に面会ができないと、家族は本人の病状変化を目にしないため、状況を理解しにくい。毎日の経過がわかるように記録して、それを家族に伝えていく。また、認知症はがん等と違って“今後”について考えにくい。意欲低下で病状が悪化していくことも伝えていく必要がある。
- ・「どうしてこんなことを言うのだろうか？」と想像したり、相手に聞いたり確認することで違う展開となり、お互いの理解や関係性の変化につながる。

(3) 今後の取組について

- ・対人支援職としてつまずいた経験、心が折れる経験をした事例等、事例検討を重ねながら、対人支援で大切なことを共有できるようにしていきます。
- ・職場等において、研修パッケージを使用した研修会が、効果的に開催できるような工夫について検討していきます。